

2019年度

カリキュラム編成書

音響制作科(1年生)

東北電子専門学校

学 科 概 要 書

作成日： 2019年4月1日

作成者： 八巻 吉市

学 科 名	音響制作科
コース名	
所属分野	クリエイティブ分野

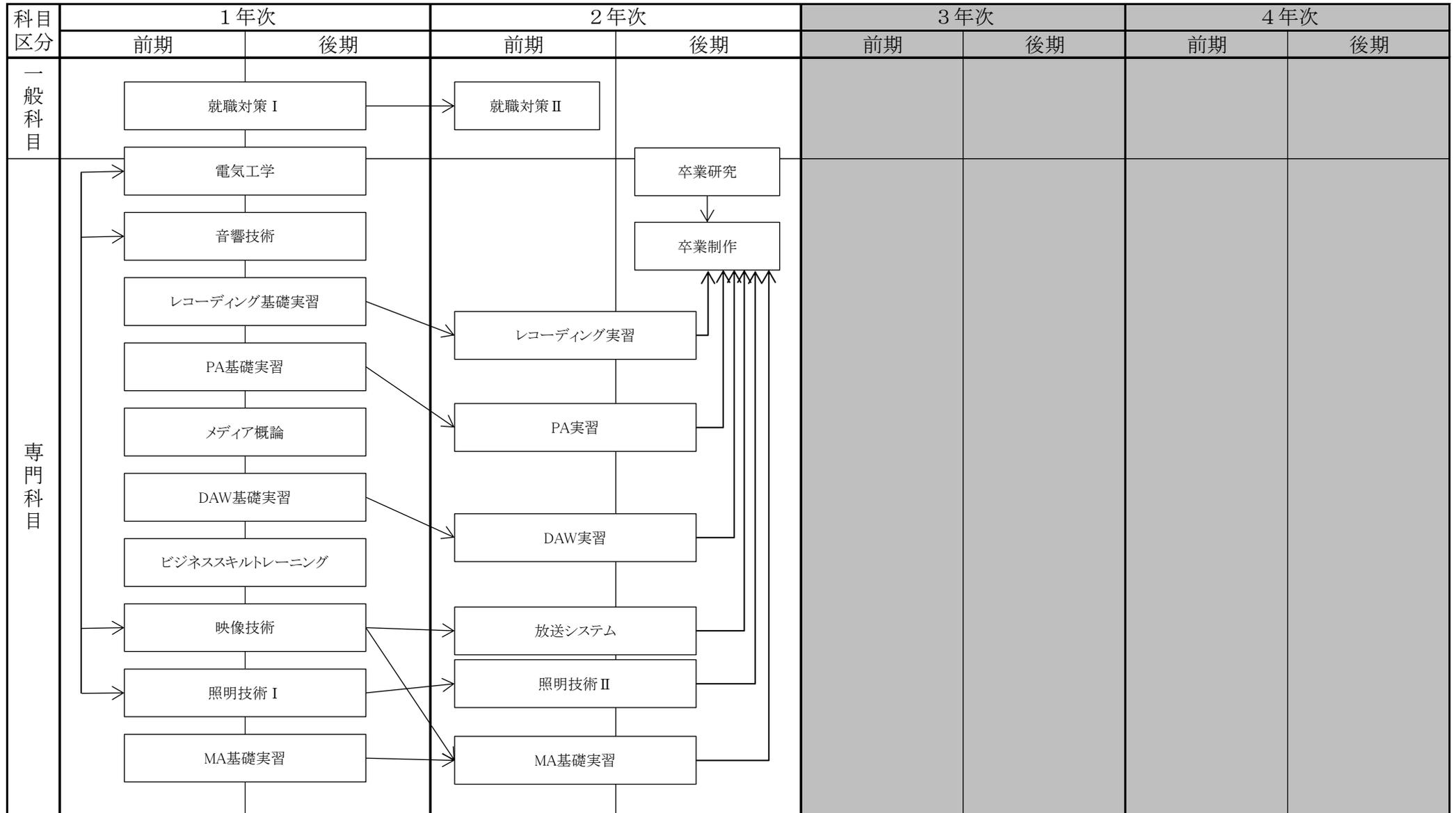
(各行は適宜増減のこと)

人材ニーズ	コンサートスタッフとして基本から応用力のある技術と幅広い知識を持った人材が求められる。
	また、音楽や歌唱をレコーディングするエンジニアから放送、映像、映画、DVDなど、あらゆるメディアに対応できるレコーディングエンジニアが求められる。
育成人材像	舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、舞台音響の総合的な専門知識を持ったオペレータや管理者を育成する。また、音楽や歌唱をレコーディングするエンジニアに限らず、放送、映像、映画、DVDなど、あらゆるメディアに対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。
主な教育内容 と目標	【教育内容】
	・音響、映像、照明の内容を基本にメディアの特性、創作手法を学び、それに加えてコンサートスタッフとして、舞台演出、舞台美術、舞台照明、舞台音響の基本から応用まで学ぶ。また、レコーディングの基本から応用まで学ぶ。
	・実習(学内・校外)を中心にカリキュラム編成を行い、「創る」楽しさを学ぶ。
	・インターンシップを取り入れ、「現場感覚」を養う。
	【目標】
	舞台ステージを創作するためにコンサートスタッフとして必要な舞台演出、舞台美術、舞台照明、舞台音響の専門知識を持ったオペレータや管理者として業務に携わることができる。
	対応できるレコーディングエンジニアと創作性を身に付けたレコーディングエンジニアを育成する。
目標資格	舞台機構調整技能検定3級・2級
	サウンドレコーディング技術認定試験
	ProTools技術認定試験
目指す職種	コンサートスタッフ(音響・照明・美術)
	TV音声スタッフ
	MAミキサー
業界や外部 専門家との 連携体制	【現状】 定禅寺ストリートジャズフェスティバル音響アシスタント参加(校外実習)
	ジャズプロムナード イン センダイ 音響担当(校外実習)
	インターンシップ(東北映像製作社協会主催)
特長	業界との連携した人材教育
その他	特記事項なし

科目関連図

作成日：2019年4月1日

学科名	音響制作科
-----	-------



シラバス

作成日:2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	就職対策 I	科 目 分 類	独自	(共通)	
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	近藤 孝之、岡崎 和行 大坂 祥郎、升澤 満夫	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	習熟度に応じたクラスを編成し、一般常識や適性試験対策を中心に学習します。就活時必要となるエントリーシートや履歴書は、自己分析により適職を知ったうえ書き方を学びます。				
到 達 目 標	就職活動時の一般常識試験に対応できる能力を身につける。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		※別紙 就職対策 I (別紙①授業計画)			
計					
使 用 教 材	(前期)「専門学校生のための就職筆記試験対策問題集」(ウイネット) (後期)「聞いたらわかった SPI」(一ツ橋書店)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・コマごとの学習目標を掴み、時間内に理解できるようにする。 ・理解できなかった所や復習のため、eラーニングを活用し理解度を高める。 ・ノートをきちんと取り、復習や予習に活かす。 ・以上でも解らなかつた所は、休み時間や放課後、先生に聞き理解できるようにする。 ・(卒業前学年は)履歴書やエントリーシートの書き方を覚える。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・実力試験の成績(年4回実施) ・授業に取り組む姿勢 などを総合的に評価する。 				

就 職 対 策 I

作成日：2019年4月1日

< 前 期 >

授業	第1章 国語	第3章 社会	第2章 数学
	開始10分間で問題集を学習・確認		後半60分間で講義・演習
1	授業の進め方、実力テストの解答・解説		
2	Exercise 1・2 漢字の読み(1)/(2)	Exercise 1/2 日本の地理(1)/日本の地理(2)	Exercise 1 式と計算(1)
3	Exercise 3/4 漢字の読み(3)/書き取り(1)	Exercise 3/4 日本の地理(3)/世界地理(1)	Exercise 2 式と計算(2)
4	Exercise 5/6 漢字の書き取り(2)/同音異義語(1)	Exercise 5/6 世界地理(2)/世界の地理(3)	Exercise 3 速さの基礎
5	Exercise 7/8 同音異義語(2)/(3)	Exercise 7/8 日本史(1)/日本史(2)	Exercise 4 旅人算
6	Exercise 9 同訓異字	Exercise 9 日本史(3) 近現代史	Exercise 5 通過算
7	Exercise 10/11 語句の意味・関連(1)/(2)	Exercise 10 世界史(1) 近代以前の西洋史	Exercise 6 流水算
8	Exercise 12 同意語・類義語	Exercise 11 世界史(2) 近代以前の東洋史	Exercise 7 割合の基礎
9	Exercise 13 反対語(対義語)	Exercise 12 世界史(3) 近代史	Exercise 8 濃度
10	Exercise 14 四字熟語(1)書き取り、文字補充	Exercise 13 政治経済(1) 日本国憲法	Exercise 9 損益算
11	Exercise 15 四字熟語(2)選択	Exercise 14 政治経済(2) 三権分立	Exercise 10 仕事算
12	Exercise 16/17 ことわざ(1)/(2)	Exercise 15 政治経済(3) 内閣と裁判所	Exercise 11 虫食い算
13	Exercise 18 慣用句・故事成語	Exercise 16 政治経済(4) 経済の仕組みと～	Exercise 12 順列・確率
14	Exercise 19 敬語	Exercise 17 政治経済(5) 景気の循環と～	Exercise 13 集合
15	Exercise 20 適語補充	Exercise 18 現代社会 社会保障制度	Exercise 14 推理
16	Exercise 21 文章の並び替え・文章整序	Exercise 19 日本・世界の思想・宗教	Exercise 15 図形と角度
17	Exercise 22 文章読解	Exercise 20 日本・世界の芸術家	Exercise 16 面積・体積
18	(予備)	(予備)	Exercise 17 展開図

< 後 期 >

授業	言語分野	非言語分野
	開始10分間で問題集を自習	後半60分間で講義
1	SPI2の概要	1. 命題
2	1. 同意語	4. 位置と方角
3	2. 反意語	7. 年齢算
4	3. 用途	8. 植木算
5	4. 行為	9. 鶴亀算
6	5. 包含	12. 水槽算
7	6. 原料	17. 代金の精算
8	7. ことわざ・慣用句	20. 数列
9	8. 敬語	21. N進数
10	9. 語句の意味	22. 図形の証明
11	10. 多義語	24. 物の流れと比率
12	11. 文法	25. ブラックボックス
13	12. 空欄補充	26. フローチャート
14	13. 文章整序	27. 図表の読み取り
15	14. 長文読解	28. てこ・モーメント
16		29. 滑車
17		30. 物体の運動
18		31. 電気
19		32. グラフの領域
20		33. 新傾向問題

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名				
科 目 名	メディア概論	科 目 分 類	独自 / (共通)	
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態 (講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	38	単 位 数 2
担 当 教 員	岡崎 和行	実 務 経 験		
目 的 / 概 要	<p>【目的】マルチメディアは文字、音声、静止画、動画などをデジタル技術で融合することでコミュニケーションを可能にするものであり、私たちの生活に深くかかわってきている。マルチメディア技術の根幹をなすコンピュータやその周辺機器、インターネット、かつデジタルコンテンツ、知的財産権、マルチメディアの応用に関する幅広い知識と技能を修得することを目的とする。</p> <p>【概要】マルチメディアの特徴・マルチメディアの中核をなすパーソナルコンピュータ・コンテンツ制作のためのメディア処理・コンテンツ制作のためのメディア処理・新たなインフラとなったインターネット・インターネットで提供されるサービス・インターネットで提供されるサービス・急速に伸びるインターネットビジネス・マルチメディア端末と進化する携帯電話・家庭のマルチメディア化・日常生活に広がるマルチメディア・ネットワークセキュリティと著作権</p>			
到 達 目 標	社会や生活の場で必要なインターネットやマルチメディアに関するコンテンツや技術、システムや機器、コミュニケーション技術に関する知識や能力について修得し、マルチメディア検定の合格する。			
目 標 資 格	マルチメディア検定ベーシック			
前 提 知 識	高等学校の程度の知識			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	14	インターネットビジネス:オンラインショッピング、金融サービス、コンテンツ配信、広告とマーケティング		
	10	デジタルとネットワークで進化するライフスタイル:情報家電、テレビと映像コンテンツ、サービスロボットゲーム機の変化		
	14	社会に広がるマルチメディア:ICカード、街角のマルチメディア、交通、医療と福祉、学術と文化行政と政治		
計	38			
使 用 教 材	入門マルチメディア(CG-ARTS協会)			
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は必要に応じ、板書したり、プリントなどを利用するので、ノートを用意すること ・大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。 			
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業への取り組み姿勢 ・課題、小テスト ・定期考査などを中心に総合的に評価する。 <p>【定期考査80%・課題小テスト10%・平常点10%】</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	ビジネススキルトレーニング			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	前期	授 業 形 態	講義 / (実習) / 演習
コマ数 / 週	1	総授業コマ数	19	単 位 数	1
担 当 教 員	丸山 千恵	実 務 経 験			
目的 / 概要	<p>【目的】「情報倫理」を学習することにより、これからのネットワーク社会を生きていくために、何が正しく何が悪いのかを判断できるような知識を身につけることを目的とする。さらに情報関連科目を学習するために必要なWindowsの基本操作や、Word、Excel、PowerPoint等のオフィスソフトの基本操作を修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ネットワーク社会で守るべきルールやマナーについて基本的な心構えや注意事項を理解する。 ・アカウントを扱う上での注意事項や、より安全なパスワードの設定方法などを理解する。 ・電子メールやWWW、携帯電話の使用について、マナーや正しい知識、心構えを身につける。 ・セキュリティについて正確な知識を身につける。 ・ネットワーク社会の問題やトラブルについての知識を身につける。 ・ネットワーク社会に関連した法律の知識を身につける。 ・Windowsの基本操作を身につける。 ・Word、Excel、PowerPointについて、基本的な操作を身につける。 				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの閲覧方法を知り、検索エンジンを使って必要な情報をインターネットから得ることができる。 ・学生用グループウェアサービスを知り、それを使ってEメールを利用できる。 ・インターネット社会の「光」と「影」の両面を理解し、説明できる。 ・インターネット社会で守るべきルールやマナーを理解し、説明できる。 ・アカウントやパスワードの取り扱いと管理のしかたを説明できる。 ・個人情報やプライバシーの意義を理解し、その適切な取扱いについて説明できる。 ・著作物の文化的意義を理解し、著作権を尊重する態度を理解し、説明できる。 ・Windowsの基本操作を習得し、操作できる。 ・Wordによる文書作成や表作成、図形や画像を利用した文書を作成できる。 ・PowerPointによるプレゼンテーション資料の作成、アニメーション効果や音響効果を盛り込んだスライド作成ができる。 				
目標資格					
前提知識	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の情報科目履修程度の知識 ・マウスの使用、簡単な文字入力 				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンリテラシー Windowsの基本操作など ・情報倫理: Infoss e-Learning 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第1章 ネットワーク社会(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第2章 ユーザー認証とアカウント(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第3章 情報の受発信(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第4章 セキュリティと個人情報保護(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第5章 ネットワーク社会と生活(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第6章 ネットワーク社会の問題とトラブル(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・第7章 ネットワーク社会を取り巻く法律(1コマ) 			
	4	<ul style="list-style-type: none"> ・修了テスト(1～5)は正解率100%取得を目標とする(1コマ) 			
	1	<ul style="list-style-type: none"> ・学生用グループウェアサービス、Eメールの利用 			
	5	<ul style="list-style-type: none"> ・Office2013/ Excel2007/PowerPoint2007テキスト 			
計	19				
使用教材	<ul style="list-style-type: none"> ・Infoss e-Learning: 情報倫理 ・Office2013/ Excel2007/PowerPoint2007テキスト(ムゲンダイ出版) 				
履修上の意	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningは「見ただけ」「読んだだけ」では効果なし！大切なのはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をが必要 ・テキストの持参 				
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・e-Learningの終了テスト ・平常点 ・テキスト課題の提出物 ・授業への取り組む姿勢などで総合的に評価する 				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	映像技術			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	八巻 吉市	実 務 経 験	地元放送局に勤務し、放送技術(番組送出、CMバンク)、制作技術(撮影、収録、録音)に従事。その経験を生かして映像技術全般の教育を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】放送や番組制作のための設備や使用機器を理解するために必要な信号の成り立ち、信号の意味や役割などを理解し、それぞれの機器の基本動作やポストプロダクション業務のための知識を修得する。同時にポストプロダクション業務に必要な検定資格「映像音響処理技術者」資格認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】 カラーテレビジョンの標準方式とNTSC方式 ・ テレビジョン信号の伝送と放送・ ポストプロダクション業務(テレビジョン信号の種類と方式)・ ポストプロダクション業務(信号の測定とVTR)・ ポストプロダクション業務(テレシネと編集)・ 検定対策</p>				
到達目標	・ 映像音響処理技術者認定試験が合格できる。				
目標資格	映像音響処理技術者認定試験				
前提知識	電気・電子に関する物理の知識、興味があれば望ましい				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	76	ポストプロダクション業務 ・映像・音声のみ基礎とポストプロダクション ・映像の特徴 ・放送 ・映像信号の成り立ち ・映像信号の記録システム ・様々な用途のデジタル映像 ・映像の編集			
計	76				
使 用 教 材	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者作成のプリント ・テレビ番組の制作技術増補版(兼六館) ・ポストプロダクション技術マニュアル・映像音響処理技術者資格認定試験問題集(20××年度版:日本ポストプロダクション協会) 				
履 修 上 の 意 注	映像制作および放送における、信号や機器の理解は必須であるのでしっかり習得すること。				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【定期考査80%・平常点20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	音響技術			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	114	単 位 数	6
担 当 教 員	川村 武史	実 務 経 験	音響技術会社に勤務後、独立、サウンドエンジニアとしてPA、スタジオ業務に従事、その経験を生かして音響技術の全般的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	<p>【目的】音の理論から音響機器の構造や動作、音響機器の取り扱いなどを講義を通して学び、映像音響処理技術者認定試験やサウンドレコーディング技術認定試験の合格をめざす。</p> <p>【概要】音の理論・音響機器の名称、役割、構造、動作原理など、音を具体的に表現するために必要な機器動作を理解する。 検定対策</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> 音響理論である音の三要素や聴覚効果など音響の基本的な事柄が説明できること。 マイクの種類や特性、ミキサーなど構造や動作が説明できること。 楽器を中心とした音楽の基礎的な事柄が説明できること。 協会発行の問題集を中心に電気の基礎を含めて学び、さらに、過去問演習を通して合格率のアップを図り、検定に合格すること。 				
目 標 資 格	映像音響処理技術者認定試験				
前 提 知 識	交流信号などの電氣的知識が多少必要				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	19	音の理論			
	76	音響機器の名称、役割、構造、動作原理、使用例			
	19	音響設備・システムについて			
計	114				
使 用 教 材	舞台音響技術概論(兼六館)：音響映像設備マニュアル(リットーミュージック)：プロ音響データブック(リットーミュージック)：ポストプロダクション技術マニュアル(JPPA)				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> 授業は板書するので、ノートを用意すること。 大切なところはノートにまとめるなどして理解を深める工夫をしましょう。 				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査 授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する <p>【定期考査80%・平常点20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	照明技術 I			科 目 分 類	独自 / (共通)
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	(講義) / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	原田 建	実 務 経 験	照明技術会社、番組制作会社に勤務し、テレビ照明、イベント・舞台照明に従事、その実務を生かして照明技術の全般的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	<p>【目的】対談番組や歌番組などスタジオ制作実習を通して、基本照明から番組形態による照明、更に演出を考えた照明など、照明技術から照明演出までトータル的に修得する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人物照明とディスプレイ照明 ・番組形態舞台形態の違いによる照明の理解 ・番組演出・舞台演出と照明 ・撮影取材の照明 ・舞台機構と安全管理 				
到 達 目 標	一般(環境)照明と演劇照明(舞台、テレビ、映画)の違いを理解すること、合わせて演劇照明技術、電気・電子・照明各工学系の基礎理論を理解して演劇照明を実践する為の基礎知識を身につけ、番組制作実習において、具体的に実践できること。				
目 標 資 格	特になし				
前 提 知 識	高校までに学んだ、学習内容と一般常識				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10 6 15 15 15 15	一般照明と舞台、テレビ、映画の照明の違い 舞台、テレビの照明設備とその歴史 光と色、視覚について、照明工学、明視論 光源、調光装置と照明器具 舞台、テレビの照明技術の基礎理論 照明デザインと仕込み図の制作、舞台機構と安全管理			
計	76				
使 用 教 材	担当者作成のプリント テレビ番組の制作技術(兼六館) 舞台テレビジョン照明 基礎編(日本照明家協会)				
履 修 上 の 意 注	教科書の内容や板書したり、したものだけでなく講義中に話した内容にも十分に注意し、ノートやメモなどを取る。事前に次回の講義範囲を提示するので、教科書や参考書に目を通し予習しておくこと。				
成 績 評 価 方 法	・定期考査 ・授業への取り組み姿勢などを中心に総合的に評価する 【定期考査80%・平常点20%】				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	電気工学			科 目 分 類	独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / 実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	岩 淵 正 則	実 務 経 験			
目 的 / 概 要	<p>【目的】 電気・電子に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てる。また、音響技術、照明技術、映像技術を履修するために必要な電気工学の基礎を学ぶ。</p> <p>【概要】 直流の基礎、電力と電気抵抗、磁気的基础、静電気の基礎、交流の基礎、ダイオードとトランジスタ、トランジスタの発振とスイッチング、電源</p>				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・電気回路の構成、抵抗・電圧・電流の関係、抵抗の接続と電圧・電流の関係を説明できる。 ・電流による発熱作用を理解させ、電力、電力量、発生熱量と温度上昇について考えさせ、消費電力と温度上昇の計算ができる。 ・抵抗率・導電率、抵抗温度係数を理解させ、基本的計算ができるようにし、実際の材料との関係を説明できる。 ・磁気現象と磁気回路の構成の仕方、磁界の強さ、磁束密度、磁曲線、電磁力、電磁誘導作用、電磁エネルギーについて物理現象について説明できる。 ・静電現象について理解させ、静電容量回路の計算ができる。 ・交流の基本的要素、表し方を理解し簡単な回路の計算ができる。 ・ダイオードとトランジスタの基本的動作を説明できる。 ・トランジスタの発振とスイッチングの回路、仕組みについて説明できる。 ・電源の基本的回路を習得し、交流から直流を作る原理を説明できる。 				
目 標 資 格	第一級特殊無線技士・映像音響処理技術者試験・サウンドレコーディング認定試験				
前 提 知 識	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校の数Ⅰ・数Ⅱの一部(連立方程式・三角関数・指数・対数・ベクトル・虚数の基礎的知識)また、電気に関する物理の知識があるほうが望ましい。 				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	10	直流の基礎			
	10	電力と電気抵抗			
	18	磁気の基礎と静電気の基礎			
	10	交流の基礎			
	10	ダイオードとトランジスタ			
	9	トランジスタの発振とスイッチング			
計	9	電源			
	76				
使 用 教 材	プログラム学習による電気・電子メカトロ基礎講座1(廣済堂出版) 各章の演習問題プリント〔演習・解説プリント〕				
履 修 上 の 意 注	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめ用ノートを用意すること。 ・計算が必要になるので、電卓を用意すること。 				
成 績 評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題作品評価(定期考査) ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する <p>【課題作品評価(定期考査)80%・平常点20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科			
コ ー ス 名				
科 目 名	レコーディング基礎実習	科 目 分 類	①独自 / 共通	
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態 講義/②実習/演習
コマ数 / 週	3	総授業コマ数	57	単 位 数 3
担 当 教 員	川村 武史	実 務 経 験	音響技術会社に勤務後、独立、サウンドエンジニアとしてPA、スタジオ業務に従事、その経験を生かしてレコーディング技術の全般的な指導を行う。	
目的 / 概要	<p>【目的】 ・コードの巻き方、マイクの取り扱い、音響機器の簡単な接続法や録音方法を修得し以降の実習に備える。DAWを使用し音楽における楽器間のバランスがとれステレオ空間に音像を定位し、音色加工と効果付加を行い作品を仕上げられるようにする。</p> <p>【概要】 ・コードの巻き方 ・マイクアレンジ ・機器の接続と操作 ・電源の投入 ・レベルの設定 ・音量の設定 ・DAWと音響調整卓の接続 ・バランスと定位 ・音色加工効果の種類と機器の接続</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクケーブル等の特殊な巻き方が出来る。 ・マイクの選定とセッティングが正しく出来る。 ・機器同士を録音できる状態に正しく接続出来る。 ・適正な音量でスピーカから音が出せる。 ・正しいレベルで録音できるよう音響調整卓の操作等が出来る。 ・各種音響設備を理解しそれらの接続法を習得する。 ・各種ケーブル、コネクタの種類とその使用法を修得する。 ・音声信号の種類を理解し、加工調整が出来る。 ・プログラムごとのレベルとバランスがとれる。 			
目標資格	サウンドレコーディング技術認定試験			
前提知識	前期の音響技術			
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容		
	2	電源の投入 コードの巻き方 マイクスタンドの取り扱い		
	8	マイクセッティング 機器の接続		
	4	レベルの設定 音量の設定		
	24	機器の操作 ミキシング		
	13	DAWと音響調整卓の接続 バランスと定位 音色加工		
計	6	効果の種類と機器の接続および設定		
計	57			
使用教材	実習プリント			
履修上の意	<ul style="list-style-type: none"> ・繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること 			
成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【定期考査80%・平常点20%】</p>			

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	PA基礎実習(企業連携科目)			科 目 分 類	① / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / ② / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	佐々木 克則	実 務 経 験	音響技術会社に勤務し、公共施設(ホール)の音響設備管理、音響拡声、録音等に従事、その実務を生かし、機材管理から実践的なPA技術の実践的な指導を行う。		
目的 / 概要	<p>【目的】連携企業講師によるPAシステムのセットアップとオペレート及び出演者とのコミュニケーションを学修する。具体的には、事前にオリエンテーションを実施し、企業担当者と授業科目内容及び授業進捗状況から実習内容を決定、実習期間中は、企業担当者を中心に現場担当者が実習に携わる。実習の結果及び学修成果評価については、現場担当者が学生の実習状況を5段階評価し、企業担当者の承認を経て、学科主任に報告する。連携により「理論」と「実務」を学修することができる。学業成果の評価については、企業担当者からの5段階評価及び評価報告内容、学生から提出される実習報告書及び実習レポート内容を評価し、学科主任が総合的に成績を評価する。</p> <p>【概要】</p> <p>①セットアップ(コードの巻き方、スピーカの設置、機器の接続と操作)を学修する。 ②PAミキサーの基本(電源の投入、レベルの設定、音量の設定)を学修する。 ③キュー出し(指示の出し方、タイミング)など現場経験豊かな講師からノウハウを学修する。</p>				
到達目標	①マイクケーブル等の特殊な巻き方が短時間で見栄えよくできる。 ②機器(マイク、ミキサー、アンプ、スピーカ)確実に接続できる。 ③ひずみやハウリングのない適正な音量でスピーカから音が出せる。 ④適正レベルでミキシングするための音響調整卓の操作ができる。 ⑤ミキシング操作がスムーズにできるようなキュー出しができる。				
目標資格	舞台機構調整技能士3級、2級(目標)				
前提知識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
		6	コードの巻き方		
		6	スピーカの設置法		
		16	音響卓の設置と取扱		
		2	電源の投入		
		8	レベルの設定		
		8	アサインの設定		
		8	イコライザーの使用法		
		8	マイクロフォンの使い方		
		6	再生機器の使い方		
		8	ホール見学1・2		
	計	76			
使用教材	実際の音響機材と音響設備概論等の教科書				
履修上の意	繊細な機器、重量の重い機器等いろいろな機器類があるので取り扱いや怪我等に十分注意すること。そのために作業時の服装についても考慮したい。				
成績評価の方法	企業担当者が(1)(2)(3)について、5段階評価を行い、評価内容を学科主任に報告する。 (1)実技、授業への取り組む姿勢 (2)課題レポート (3)実技評価 学科主任は、企業担当者の5段階評価及び評価報告内容を総合的に成績を評価する。				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	DAW基礎実習			科 目 分 類	① / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	通年	授 業 形 態	講義 / ② / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	76	単 位 数	4
担 当 教 員	小野寺 明敏	実 務 経 験	ミュージシャンとして活躍後、サウンドクリエイター、プロデューサーとして、アーティスト楽曲提供、CM楽曲制作など幅広く活動。その経験を生かし、音楽、音響の両面から実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	<p>【目的】音楽の基礎的理論を理解し、コンピュータを核としたDAWのソフトウェア(ProTools)で音の加工や編集を行い音を仕上げる技術を学ぶ。また、ProTools技術認定試験の合格を目指す。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ツール操作(ProTools技術認定試験対策も含む)・音源の取り込み・編集・効果・録音・作品制作(マスタリングも含む) 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ProTools技術認定試験(9月実施)に合格できる。 ・それぞれのツールを理解し、取り込んだ音源を編集して作品を仕上げるができる。 ・CM等、映像と音の理解を深める。 				
目 標 資 格	サウンドレコーディング技術認定試験・ProTools技術認定試験				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	2	DAWの基礎、概念。PC/ProTools操作基礎。			
	4	DAWの基礎、概念。CM音源を使用した、ProTools操作基礎。			
	6	ProTools操作基礎。NA素材を使用した、プラグインの理解。			
	6	ProTools技能認定試験対策。			
	6	DTM-CM音源を使用した、プラグイン、ミックス、マスタリングまでの実習。			
	10	生音バンド音源を使用した、プラグイン、ミックス、マスタリングまでの実習。			
	6	ProTools-MIDI機能の理解。			
	2	CM素材(NA.楽曲.映像)を使用した編集、整音。			
	2	音声、楽器を使った収録。音痩せ、音われ、ノイズの理解。			
	8	CM素材(NA.楽曲.効果音.映像)を使用した編集、整音～完成。			
	6	ProTools-MIDI機能-効果音、楽曲の制作～ミックス、マスタリング。			
6	生音バンド音源を使用した、ミックス総合実習				
2	生音バンド音源を使用した、ミックス～マスタリングまでの実習				
10	長編映像素材を使用した、NA.楽曲.効果音の編集～整音～完成。				
計	76				
使 用 教 材	ProTools演習テキスト(テキストタイトル・出版社名) *ProTools 12 Software徹底操作ガイド/リット-ミュージックProTools演習テキスト				
履 修 上 の 意 注	映像コンテンツには音は欠かせないものですので、映像表現も意識して取り組むこと。				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【定期考査80%・平常点20%】</p>				

シラバス

作成日：2019年4月1日

学 科 名	音響制作科				
コ ー ス 名					
科 目 名	MA基礎実習			科 目 分 類	①独自 / 共通
履 修 年 次	1	履 修 学 期	後期	授 業 形 態	講義 / ②実習 / 演習
コマ数 / 週	2	総授業コマ数	38	単 位 数	2
担 当 教 員	小野寺 努	実 務 経 験	番組制作会社に勤務、その後独立し、ドキュメンタリー映画・TV番組・TVCM・音楽ビデオ制作に従事、その実務を生かしてMA処理の実践的な指導を行う。		
目 的 / 概 要	<p>【目的】映像における音処理方法を習得する。その過程においてMAの重要性を理解する。</p> <p>【概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像音声処理の習得 ・音楽、効果音、ナレーションの付け方の習得 ・MAの意味・意義の理解 				
到 達 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・映像音声の処理及び音楽、効果音、ナレーションを効果的に処理できる。 ・MAの意味・意義の理解。 				
目 標 資 格	映像音響処理技術者認定試験				
前 提 知 識	特になし				
授 業 計 画	コマ数	授 業 内 容			
	4	MA概論			
	4	映像音声の処理方法			
	4	音楽、効果音の処理方法			
	6	ナレーションの処理方法			
	4	ミックスダウン方法			
計	16	自主作品制作			
	38				
使 用 教 材	講師作成プリント				
履 修 上 の 意 注	映像作品のクオリティを左右する音声処理は重要です。				
成 績 評 価 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査 ・授業への取り組む姿勢などを中心に総合的に評価する ・平常点 <p>【提出課題80%・平常点20%】</p>				